

研究概要と説明文書

『子どもの最善の利益に寄与する特別養子縁組「生みの親」への有効な支援の検討
-「生みの親」と「養子となった子」の語りと支援者へ調査の結果から-

研究にご協力いただく前に、この文章の内容について
ご確認いただきますようお願い申し上げます

作成日：2024年7月10日

1. 研究背景と目的について

近年、社会的養護の家庭養育優先の理念が規定され、「生みの親」の養育困難が予想される事例に対し、子どもの最善の利益を保障する観点から特別養子縁組制度が推進されています。特別養子縁組を選択する“生みの親”的多くは、制度の選択に至るまでさまざまな背景を持ち、その要素は複雑に絡み合っているとされます。子どもの最善の利益を考え制度を選択していても、悲嘆・自尊心の低下・罪悪感を長期に亘り抱くとされるため、生みの親の思いをくみ取り、意思決定を受容し、精神的なケアを行うことが重要であるとされています。さらに近年 open adoption が推進されていることから、“生みの親”と“養子となつた子”との Reunion（再会・関係の再構築）の可能性が残されています。現在行われている当事者への支援は限定的であることが分かっていますが、養子となつた子の立場から求める生みの親支援を明らかにすることが、当事者中心の支援を検討する上で不可欠であると考えてました。

そこで本研究では、特別養子縁組当事者の“養子となつた子”であるみなさまに調査のご協力をいただき、“養子となつた子”と“生みの親”との Reunion（再会・関係の再構築）を前提としたとき、“養子となつた子”的立場から考える“生みの親”への有効な支援を検討していきたいと考えております。

2. 倫理審査について

本研究は、東北福祉大学大学院研究倫理審査委員会による承認（〇〇号）を経て、実施しております。

3. 参加の自由と同意撤回の自由について

本研究への協力は自由意志であり、協力頂けない場合でも不利益は生じないことを保証致します。また協力に同意いただいた後でも、データ分析前まで同意の撤回が可能です。同意を撤回しても一切不利益を受けません。

本研究について詳しい説明を受け、研究の内容を理解し、協力いただける場合、同意書にサインをお願いいたします。また、同意を撤回されたい場合には、お申し出いただき同意撤回書をご提出ください。

4. 研究対象基準とその選定について

本研究は特別養子縁組制度の当事者である“養子となつた子”を対象とします。選定基準は以下の通りです。

- ・成人している（18歳以上）
- ・日本語による会話、読み書きが可能である
- ・自身の経験について語ることができる
- ・“生みの親”との交流の有無は問わない

5. 研究の内容と方法について

本研究はインタビュー調査であり、2回のインタビューを実施させていただきます。1回目は基礎情報

や養子であることを知った経緯や思いについてお伺いします。2回目は1回目のインタビュー内容に齟齬がないか確認するとともに、“生みの親”とのReunionを前提としたとき、“生みの親”へのどのような支援が必要であると考えるかなどについてお伺いします。インタビューに要する時間は各回約60分です。インタビュー内容はICレコーダーに録音させて頂きます。またインタビューガイドを使用し、フィールドノートへの記載をさせていただくことをご承知下さい。

6. 研究参加により予想される利益と不利益について

研究に参加し過去の経験や自分の思いを語ることによって、自分の考えを整理し意味づけるきっかけとなり得ますが、経験してきた出来事を語ることにより、精神的なストレスを受ける可能性があります。話したくない内容や思い出したくない内容などは、話さなくて良いことをお約束し、インタビューのどの段階であっても中断・中止が可能であることを保証します。また適宜休憩をはさみながら行い、負担の軽減に努めます。途中で身体的な症状や精神的負担を感じられるような表情や言動などが確認された場合においても、中断を提案させていただきます。必要な場合にはみなさまの希望に合わせ心理職の介入を検討します。また、調査後に、調査による身体的・精神的苦痛を感じた場合にも同様に専門家の指示を仰ぎ適切な支援を実施します。研究への協力は自由意思であり、データ分析前まで同意撤回もお受け致します。この研究結果は博士論文としてまとめると同時に学術集会での発表を予定しております。

7. 研究実施予定期間

この研究は、研究許可日から2027年3月まで行う予定です。皆さんにご協力していただく期間は、2日間です。

8. 個人情報の取り扱いについて

本研究は個人情報を守った上で行われ個人やインタビュー内容が特定されることは一切ありません。特にインタビューの中に特別養子縁組当事者の個人情報も含まれる可能性があるため、十分かつ慎重に配慮し取り扱います。得られたデータは研究室内の施錠が可能なキャビネットに保管し漏えい・盗難・紛失等が起きないよう管理致します。また研究以外の目的に使用されることもありません。以上の個人情報の取り扱いにご同意頂いた上で、同意書にご署名ください。

9. 調査資料取り扱いについて

インタビューで得られたデータは個人情報に関わる情報を切り離した上で（個人が特定できないよう、番号などでコード化した上で）研究担当者が保管、管理、分析を行い、この研究以外に使用されることはありません。研究終了後、データは個人が特定されないよう匿名化したうえで保存され、保存期間終了後は再生不可能な状態で破棄します。

10. 研究結果の公表について

本研究から得られた結果は、学会や雑誌などで公表いたします。発表に際し、個人を特定できる情報を使用することはありません。

11. 研究の資金と利益相反について

本研究は日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研費）の助成を受けて行います。本研究に関して起こりうる利益相反はありません。

12. 研究組織と連絡先（相談窓口）

この研究は、東北福祉大学大学院総合福祉研究科、博士課程に在籍する安部葉子が行う研究です。研究データの開示や研究同意の撤回、その他のお問い合わせは下記までご連絡ください。

連絡先（相談窓口）

〒981-8522

仙台市青葉区国見 1-8-1

E-mail : yoko-a@tfu.ac.jp

研究実施者

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科

博士課程 安部 葉子

指導教員（主査）

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科

教授 三浦 剛